

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace公津の杜		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」を組み合わせることでより脳と体が成長します。脳と体は相互関係にあり、体を動かすと脳（前頭前野）が活性化し、集中するために必要な脳の領域が活発になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため結果的に集中する力が身に付きます。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子ども飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	1日の中で自由遊びの時間と、運動療育の時間を分けて、子どもがその日にやりたい事をして過ごす自由遊びの時間と、運動療育の時間はみんなで楽しく体を動かすことで、メリハリをつけている。	運動療育のプログラム内容をその日利用している子どもに合わせて行うようにしている。	今後もプログラムの内容は楽しく運動遊びをしていくうちに自然と鉄棒や跳び箱、縄跳びなどができるようになるスモールステップで行っていく。
3	ニュータウンという立地で学校や保育園、幼稚園の数も多いので、利用者も様々な学校の子ともと交流ができ、幅広い友だちとの交流ができる。	他校のお友だちともルールを守って仲良く遊べるような集団遊びを提供している。	違う学校同士、子供たち、親同士の交流できる環境を設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などの交流の機会がない	子どもと一緒に保護者が参加できるイベントは実施済み。今後は保護者同士で情報の共有が出来る場をたくさん提供していきたい。	保護者にアンケートを取り、保護者会で行って欲しい生の声を聴き、それをもとに企画を検討していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館との交流、地域の中での他の子どもとの交流がない	近くに交流できる施設があるので今後、企画し交流する機会を作っていきたい。	広報やフリーペーパーなどの情報からイベント情報を集めて地域の子どものとの交流の機会を作っていく。
3			